

CLAYTON UTZ

CLAYTON UTZ

# オーストラリア排出権取引法案と再生可能エネルギー強制目標制度の改正

クレイトン・ユッツ法律事務所

パートナー弁護士 加納寛之

パートナー弁護士 バリー・アーウィン

パートナー弁護士 スチュアート・マクレガー

2009年11月6日

# 本日の講演の概要

1. 温室効果ガス排出に関する豪州の国際的義務
2. 温室効果ガス排出に関する豪州の現在の規制の枠組み(MRET制度とNGER法)
3. 排出権取引制度(炭素汚染削減制度、CPRS)法案の内容及びその現在・将来のプロジェクトへの影響
4. 野党が提示したCPRS修正法案の内容
5. CPRSが各種プロジェクトの投資家にもたらすビジネス・チャンス
6. 質疑応答

# 京都議定書

- 批准が現労働党政権の2007年12月にとった最初の行動
- 京都議定書は2008年3月11日に発効
- 豪州は2008年から2012年の間に1990年の温室効果ガス排出レベルの108%に抑える義務あり
- 183か国が批准
- コペンハーゲンにおいて京都議定書以後の議定書の作成が目指されている

# 温室効果ガス

| Greenhouse gases      | Chemical formula                | Pre-industrial concentration | Concentration in 1994 | Atmospheric lifetime (years)** | Anthropogenic sources  | Global warming potential (GWP)* |
|-----------------------|---------------------------------|------------------------------|-----------------------|--------------------------------|--|---------------------------------|
| Carbon-dioxide        | CO <sub>2</sub>                 | 278 000 ppbv                 | 358 000 ppbv          | Variable                       | Fossil fuel combustion<br>Land use conversion<br>Cement production | 1                               |
| Methane               | CH <sub>4</sub>                 | 700 ppbv                     | 1721 ppbv             | 12,2 +/- 3                     | Fossil fuels<br>Rice paddies<br>Waste dumps<br>Livestock           | 21 **                           |
| Nitrous oxide         | N <sub>2</sub> O                | 275 ppbv                     | 311 ppbv              | 120                            | Fertilizer<br>industrial processes<br>combustion                   | 310                             |
| CFC-12                | CCl <sub>2</sub> F <sub>2</sub> | 0                            | 0,503 ppbv            | 102                            | Liquid coolants.<br>Foams  | 6200-7100 ****                  |
| HCFC-22               | CHClF <sub>2</sub>              | 0                            | 0,105 ppbv            | 12,1                           | Liquid coolants  | 1300-1400 ****                  |
| Perfluoromethane      | CF <sub>4</sub>                 | 0                            | 0,070 ppbv            | 50 000                         | Production of aluminium  | 6 500                           |
| Sulphur hexa-fluoride | SF <sub>6</sub>                 | 0                            | 0,032 ppbv            | 3 200                          | Dielectric fluid   | 23 900                          |

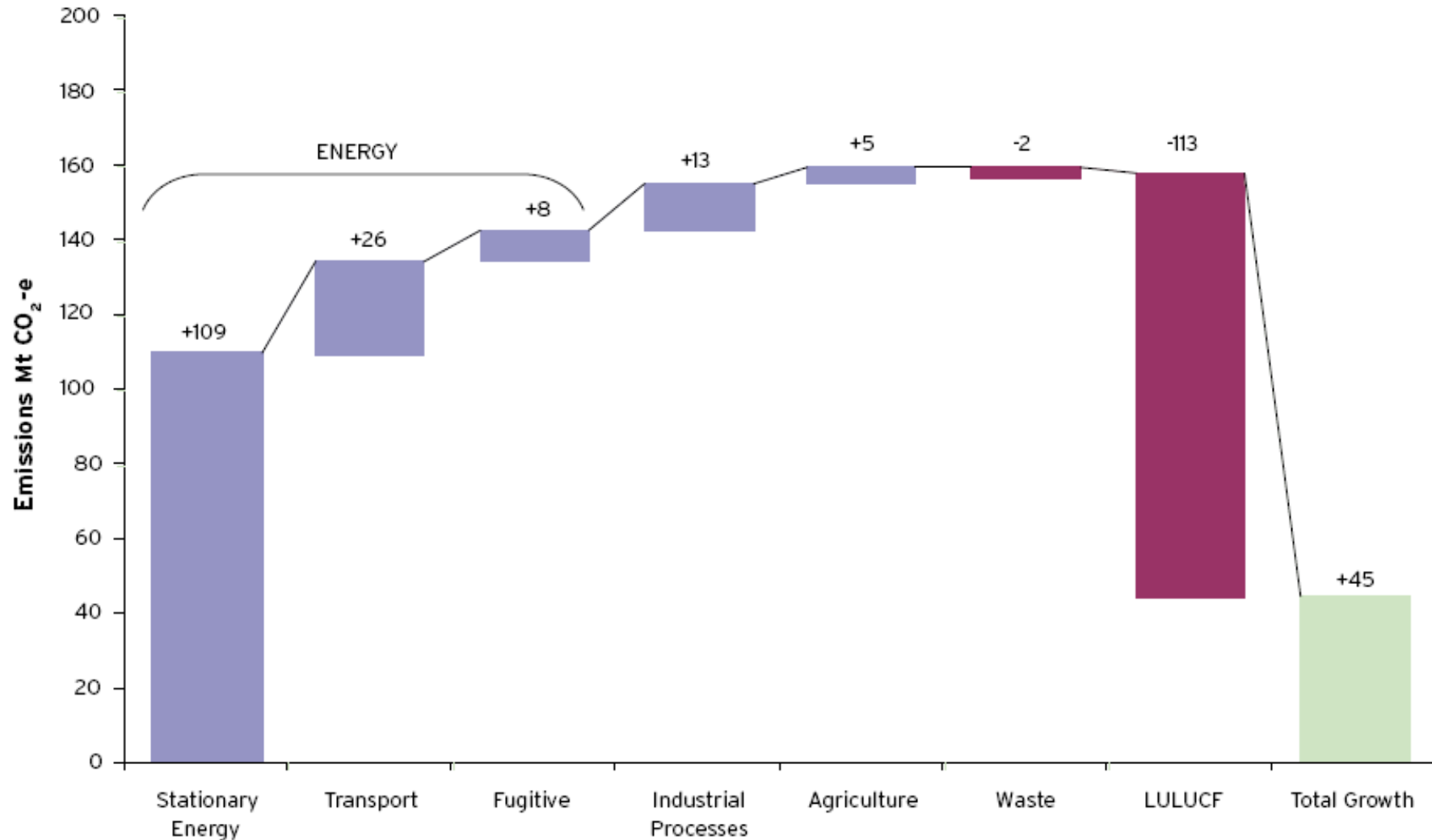
Note : pptv= 1 part per trillion by volume; ppbv= 1 part per billion by volume, ppm v= 1 part per million by volume

\* GWP for 100 year time horizon. \*\* Includes indirect effects of tropospheric ozone production and stratospheric water vapour production. \*\*\* On page 15 of the IPCC SAR. No single lifetime for CO<sub>2</sub> can be defined because of the different rates of uptake by different sink processes.\*\*\*\* Net global warming potential (i.e., including the indirect effect due to ozone depletion).

Source: IPCC radiative forcing report : Climate change 1996, The science of climate change, contribution of working group 1 to the second assessment report of the intergovernmental panel on climate change, UNEP and WMO, Cambridge press university, 1996.



Figure 2: Change in emissions by sector: 1990 to 2008-12



豪州における温室効果ガス排出量の1990年からの変化 - 発電・運送分野での大幅な増加を開墾における減少で相殺している点に注目。2012年以降の京都議定書の期間以降に再度これを成し遂げるのは恐らく不可能。

Department of Climate Change

# 本日の講演の概要

1. 温室効果ガス排出に関する豪州の国際的義務
2. 温室効果ガス排出に関する豪州の現在の規制の枠組み(MRET制度とNGER法)
3. 排出権取引制度(炭素汚染削減制度、CPRS)法案の内容及びその現在・将来のプロジェクトへの影響
4. 野党が提示したCPRS修正法案の内容
5. CPRSが各種プロジェクトの投資家にもたらすビジネス・チャンス
6. 質疑応答

# 再生可能エネルギー(電気)法(連邦)



# 再生可能エネルギー強制目標

| 地域           | 制度                       | 目標  |
|--------------|--------------------------|---|
| 連邦           | 再生可能エネルギー強制目標            | <u>近時2020年までに45,000 GWhに引上げ<br/>(約20%に)</u>   |
| クイーンズランド     | 再生エネルギー計画                | 以前の制度が連邦の制度と一致するように改正                         |
| ニューサウスウェールズ  | NSW 再生エネルギー目標            | 2010年までに10%に、2020年から2030年までに15%に（法案提出後議会は未通過） |
| ヴィクトリア       | VRET                     | 2016年から2030年までに10%に。拡大された連邦の制度の開始に伴って廃止       |
| サウスオーストラリア   | 気候変動・温室効果ガス排出削減法<br>2007 | 2015年までに20%に（野心的目標）                           |
| ウェスタンオーストラリア | 法案あり                     | 2020年までに15%に、2025年までに20%に（2011年から開始と発表）       |
| タスマニア        | なし                       | 既に90%を水力により発電                                 |

# 再生可能エネルギー強制目標

- 連邦制度の拡充が全ての州の制度を組込む
- 2000年再生可能エネルギー(電気)法(連邦)
- 2009年再生可能エネルギー(電気)改正法
- 3つの目的(第3条):
  1. 再生可能資源からの発電の促進
  2. 電力分野における温室効果ガス排出の削減
  3. 再生可能エネルギー資源を経済的に持続可能なものに

# 再生可能エネルギー強制目標

- 2001年施行、2010年から改正
- 新しい技術に投資する財政的なインセンティブを与えることにより新しい「再生可能」エネルギーの導入を支援
- 再生可能エネルギー証明書(REC)は認可された再生可能エネルギー発電事業者が作成(風力発電プラント、追加的な水力発電等)
- 再生可能エネルギーとは？
  - 水力、波力、潮力、海洋エネルギー、風力、太陽光、地熱、高温岩体、エネルギー農作物、木材廃棄物、農作物廃棄物、農作物の湿性廃棄物、食品廃棄物、食品の、湿性廃棄物、バガス(さとうきびの廃棄物)・コジェネレーション、黒液(製紙産業の廃棄物)、自治体の固形ゴミのバイオマス成分、埋立てガス、下水汚泥ガスその他規則で定める資源(第17条)
  - 余剰炭鉱ガス(Waste Coal Mine Gas)

# 再生可能エネルギー強制目標制度

- 1 REC = 1 MWh(メガワット時)の再生可能電力(第2章、第4節)
- 無制限のbanking(蓄え・繰越し): RECは制度の終了まで有効
- 「義務主体」は「関連した取得」を行う業者(第35条)
- 一定の小規模発電装置(SGU)に対して倍率の適用

# 再生可能エネルギー強制目標

- 「関連した取得」(第3章)は、次の電力の購入を意味：
  - 電力卸売市場(NEM)に登録した業者(小売業者や大規模消費者)が、NEMにおいて、または生産者から直接取得(卸売りからの取得、第32条)
  - 発電業者による擬制的卸売りからの取得(発電業者がNEMに登録していない最終消費者に販売する場合、またはその発電業者が最終消費者でもある場合)(第33条)
- 義務主体は、毎年2月14日までに年次エネルギー取得報告書を提出
- 納付するRECの価値(メガワット時)(第44条)

# 再生可能エネルギー強制目標

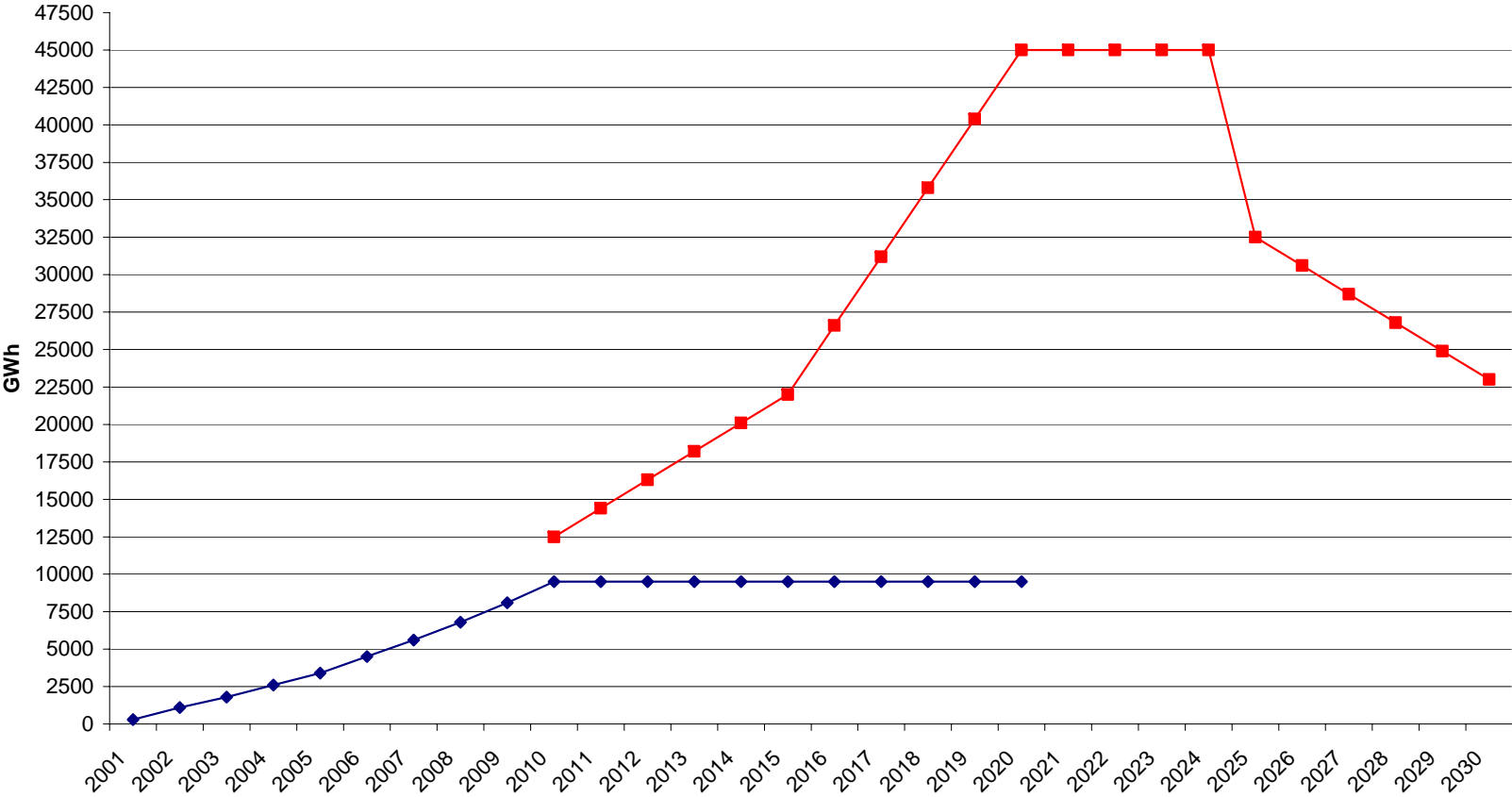
- 義務主体が購入義務に相当する数の再生可能エネルギー証明書(REC)を納付しなかった場合、罰金は1枚につき40豪ドル(第36条及び第37条)(及び再生可能エネルギー(電気)課徴金法2000の第6条)
- その罰金に税控除はなし
- 2010年から罰金は65豪ドルに引上げ
- 義務主体のREC納付義務の10%は翌年に持ち越すことが可(第36条(2))

# 主な改正

- NSW州の温暖ガス削減制度の終了を埋め合わせるための余剰炭鉱ガス(WCMG)の追加
- 例外(免除)規定の導入
- 各州の制度からの移行規定

# 制度目標

Renewable Energy Target  
Comparison of Current Scheme to Proposed Scheme





# 拡充された再生可能エネルギー強制目標制度

- 高貿易依存度で大量電力消費の産業 (Trade Exposed Electricity Intensive Industries)
  - 拡充された制度の要件からの例外規定
  - 40豪ドルを超えるRECの取引の場合には増加分について補償

# 段階的低減・廃止とCPRSとの相互関係

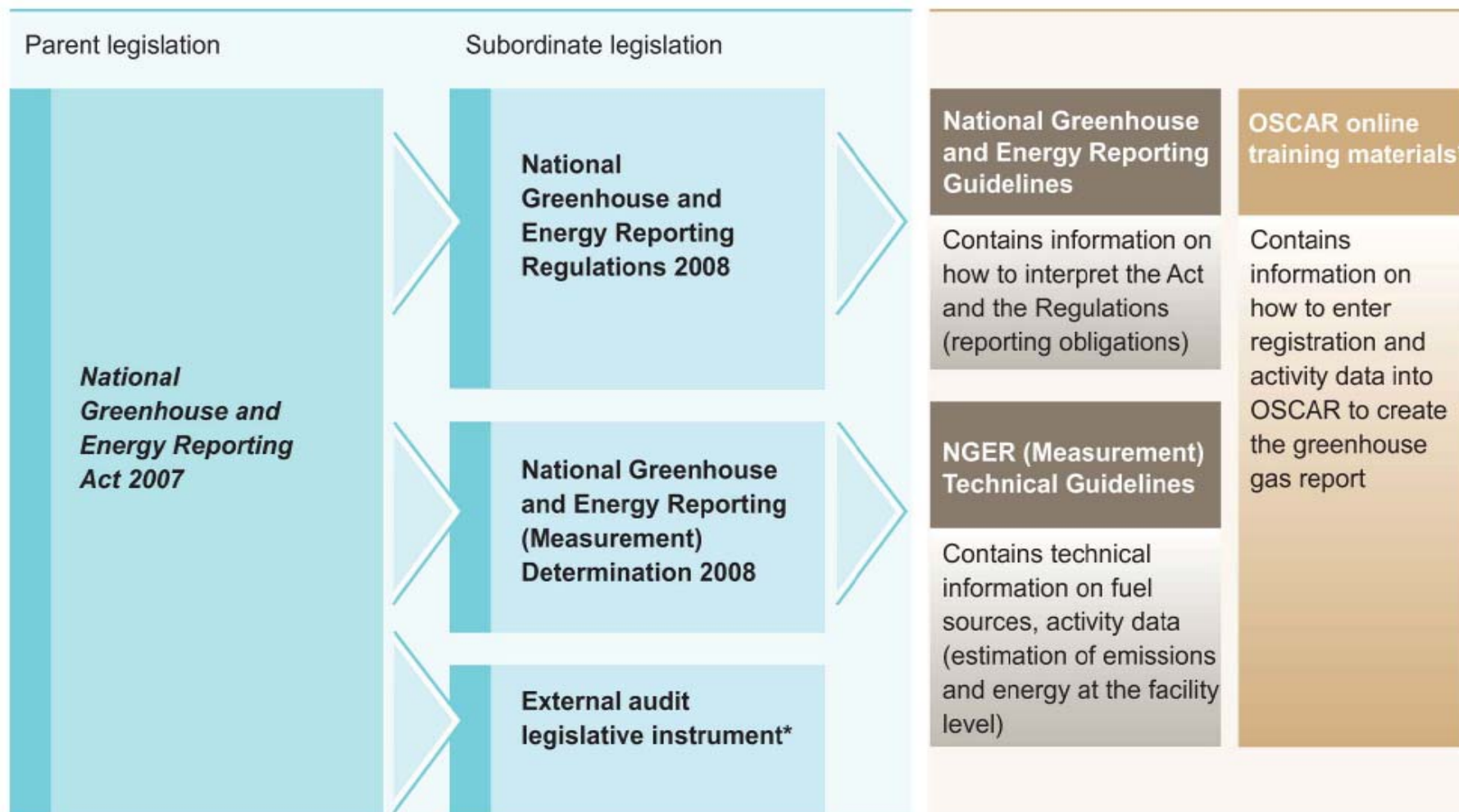
- 2020年以降MRETの目標は段階的に低減され、2030年に廃止
- 排出権取引は目的と手段において異なる制度
- 排出権取引は排出量に上限を設ける制度で、どう達成するかは問わず
- MRETに加え排出権取引制度を導入することにより電気料金に影響を及ぼす二つの連邦制度が並存することに

# 国家温暖化・エネルギー報告法(NGER)

# 国家温暖化・エネルギー報告

- 2007年国家温暖化・エネルギー報告法（連邦）（NGER Act）
- 2008年7月1日より一定の企業に温室効果ガス排出量、エネルギーの生産及び使用の測定及び報告を義務付け
- 測定及び報告手続は排出権取引制度に不可欠
- 州の制度との重複を回避
- CPRS法案とともに改正案あり

# 法律、規則及び指針



Department of Climate Change

## Support materials

Facility thresholds

25kt  
100 TJ

# NGER Act thresholds

Corporate group thresholds

125kt  
500 TJ

87.5kt  
350 TJ

50kt  
200 TJ

FIRST REPORTING YEAR  
2008-09

SECOND REPORTING YEAR  
2009-10

THIRD REPORTING YEAR  
2010-11

FOURTH  
2011-12

Corporations to apply for registration by

31 August 2009

31 August 2010

31 August 2011

31 Aug 2012

Corporations to provide data report by

31 October 2009

31 October 2010

31 October 2011

31 Oct 2012

Government to publish data by

28 February 2010

28 February 2011

28 February 2012

28 Feb 2013

**Notes:** TJ = terajoule ( $10^{12}$  joules) of energy consumed or produced; kt = kilotonne ( $10^6$  kilograms) CO<sub>2</sub>-e equivalent of greenhouse gases emitted. Conversion factors: Energy—1 terajoule = 1000 gigajoules, 1 gigajoule = 1000 megajoules, 1 megajoule = 1000 kilojoules, 1 kilojoule = 1000 joules; CO<sub>2</sub>-e emissions—1 kilotonne = 1000 tonnes, 1 tonne = 1000 kilograms.

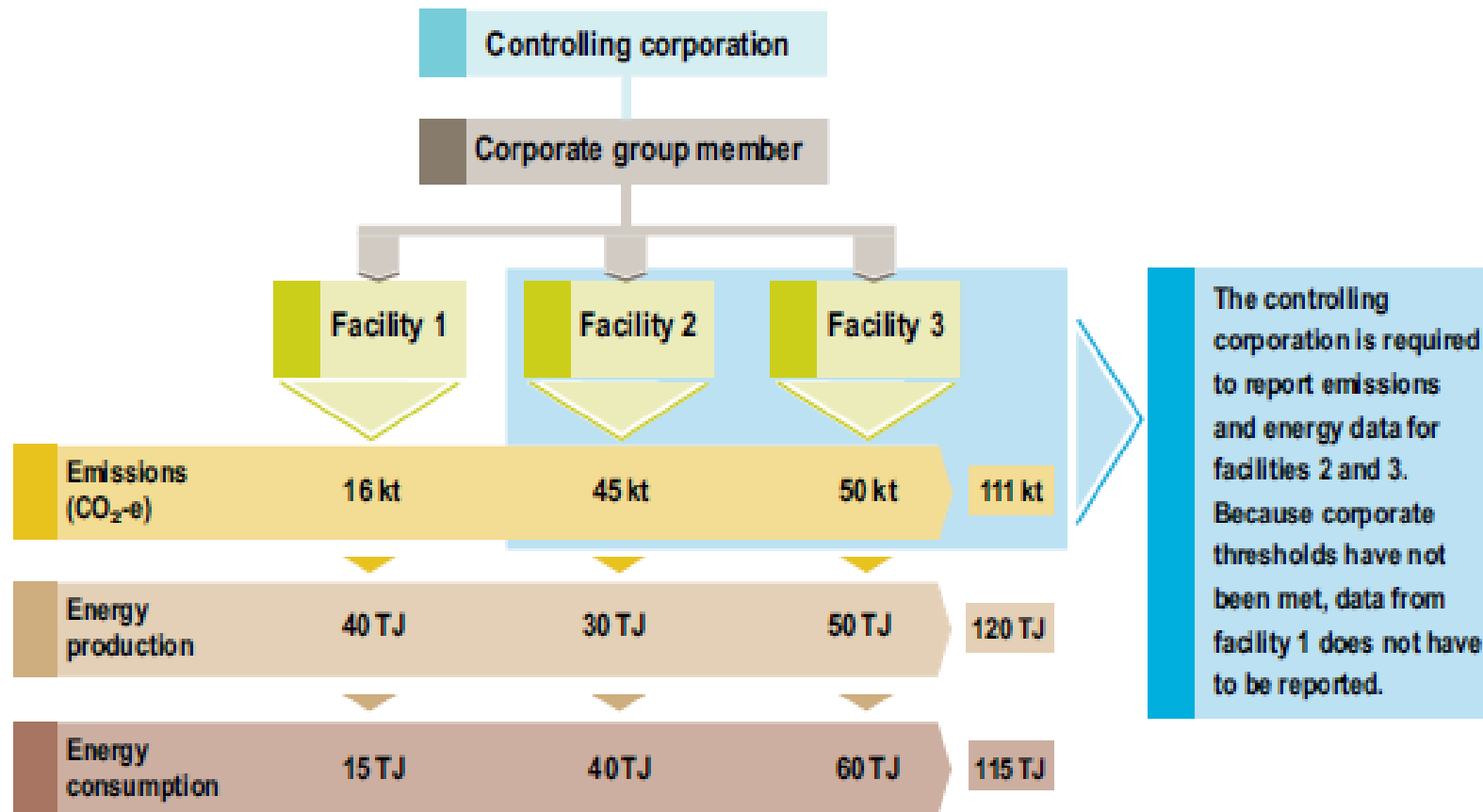
## 注意：現在のところ会社組織にのみ適用

Department of Climate Change

CLAYTON UTZ

# 施設基準

Figure 3.2: Reporting against facility thresholds



Department of Climate Change

## KYOTO GREENHOUSE GASES

CO<sub>2</sub>

SF<sub>6</sub>

CH<sub>4</sub>

N<sub>2</sub>O

HFCs

PFCs

# Greenhouse Gas Emissions

### Scope 2\*

The release of greenhouse gas as a result of one or more activities that generate electricity, heating, cooling or steam that is consumed by the facility but that *do not* form part of the facility.



Mandatory to report under NGERS

### Scope 1\*

The release of greenhouse gas into the atmosphere as a direct result of an activity, or series of activities (including ancillary activities) that constitute the facility.



### Scope 3

Emissions that occur outside the boundary of a facility as a result of activities at a facility and are not scope 2 emissions.



Not mandatory to report under NGERS

\* The definitions of scope 1 and scope 2 emissions are summarised from r. 2.23.



# 重要な定義

- 事業支配 (Operational Control)
  - どの会社が以下を決定、実施する権限があるかによって決定
    - 事業方針
    - 労働安全衛生の方針
    - 環境ポリシー
  - 共同事業 (JV) と契約採鉱業者の問題
- 施設 (Facility)
  - 次の活動が行われているかどうかについて分析する必要あり
    - 温室効果ガス排出またはエネルギーを生産・消費する活動かどうか
    - その活動が生産過程の一部かどうか
    - ひとつの「場所」において行われている活動かどうか
    - ひとつの産業分野に属する活動かどうか

# 重要な定義

- 義務移転証明書 (Liability Transfer Certificate)
  - 報告義務を、施設を事業支配している会社から財政的に支配している会社に移転可能
  - 事業支配している会社から施設を運営している会社 (例えば契約採鉱業者) への移転を認める案

# 測定

- NGER の規則は、複数の測定手法を規定。特定の産業に特化したものもあり。
- 国家温暖化・エネルギー報告（測定）決定2008が排出量を予測する4つの手法を提示
  - ・ 手法1 - 標準手法
  - ・ 手法2 - 産業サンプリングや国際基準を使った施設に固有の手法
  - ・ 手法3 - 手法2に類似するがサンプリングに文書要件を遵守する必要あり
  - ・ 手法4 - 排出量を直接監視

# 登録

- 施設基準または企業グループ基準を充たす可能性のある会社は必須
- 約700社及び1700施設が登録義務ありと推定
- 「支配会社」による登録
  - 豪州で設立された持株会社を持たない会社
- 2008/09年度については2009年8月31日までに登録

# 遵守及びエンフォースメント

- 温暖化エネルギー・データ事務官 (GEDO) が執行。  
CPRS導入後は変更。
- 支配会社が登録しなかったら - 最高22万豪ドルの罰金
- CEOが報告報告義務を果たすための適切な手段を講じなかったら - 最高22万豪ドルの罰金
- GEDOによる外部監査の規定

# CPRSとの相互関係

- CPRS法案はNGER法に関する改正も多く含む
  - ・ 義務主体の数の増加
- NGER法下で報告された温室効果ガス排出がCPRSの義務・責任のベースに
- NGER下で報告された全ての温室効果ガスがCPRSでも義務・責任の対象となるわけではない
  - ・ 閉鎖された鉱山 - NGER法では報告義務あるがCPRSではその排出に責任なし

# 本日の講演の概要

1. 温室効果ガス排出に関する豪州の国際的義務
2. 温室効果ガス排出に関する豪州の現在の規制の枠組み(MRET制度とNGER法)
3. 排出権取引制度(炭素汚染削減制度、CPRS)法案の内容及びその現在・将来のプロジェクトへの影響
4. 野党が提示したCPRS修正法案の内容
5. CPRSが各種プロジェクトの投資家にもたらすビジネス・チャンス
6. 質疑応答

# 炭素汚染削減制度

- 排出量を減らすための排出権取引制度の導入を提案
- 連邦政府、2050年までに2000年のレベルから60%排出削減という長期目標を掲げる
- コペンハーゲン気候変動会議(COP15)の結果に応じ、2020年までに25%以下の削減



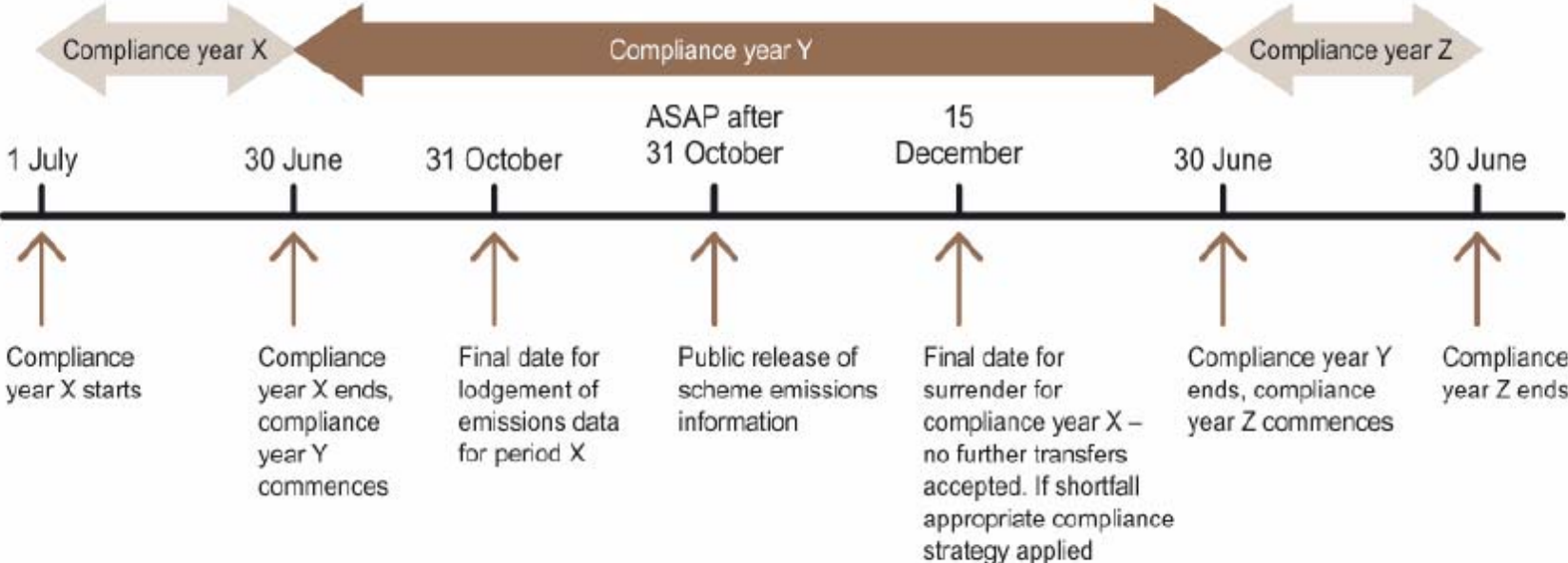
# 制度の基本的な構造

- 排出者は1トン当たりの排出に対して排出許可証を取得しなければならない
- 許可証の数は限定されている(キャップ、上限)。許可証は連邦政府が発行
- 許可証には金銭的価値があり、取引される
- 排出はNGER法で監視され、監査される
- 開始は2011年7月1日に延期
- 初年度は10ドルの固定価格、その後の4年間も価格上限あり

## 制度の適用範囲

- 各年度の終りに許可証を納付するか、罰金の支払い&「義務の履行」
- 六種の京都議定書の温暖化ガス
- 豪州における約75%の排出量
- 約1000社が義務を負う
- 2015年までは農業は対象外
- 林業が2010年にオプトインされる可能性

# 遵守のスケジュール



Department of Climate Change

# 国家排出目標

- 目標と総量規制値予測 (gateways) の程度が制度のインパクトを図る上で重要 (短期的により高い目標にすれば、許可証の価格は高くなる)
- 2050年までに2000年のレベルから60%を削減する長期目標
- 指針となる規制値の5年毎の公表により業界の予測可能性を促進.

## 制度の詳細

- 初年度を除き、許可証は競売で有償給付
- 初年度を除き、許可証の"Banking"も可
- "Borrowing"には制約あり
- 京都議定書の下での排出枠（排出クレジット、許可証）の活用も認める
- 排出枠の取得義務は可能な限り上位のサプライチェーンまで

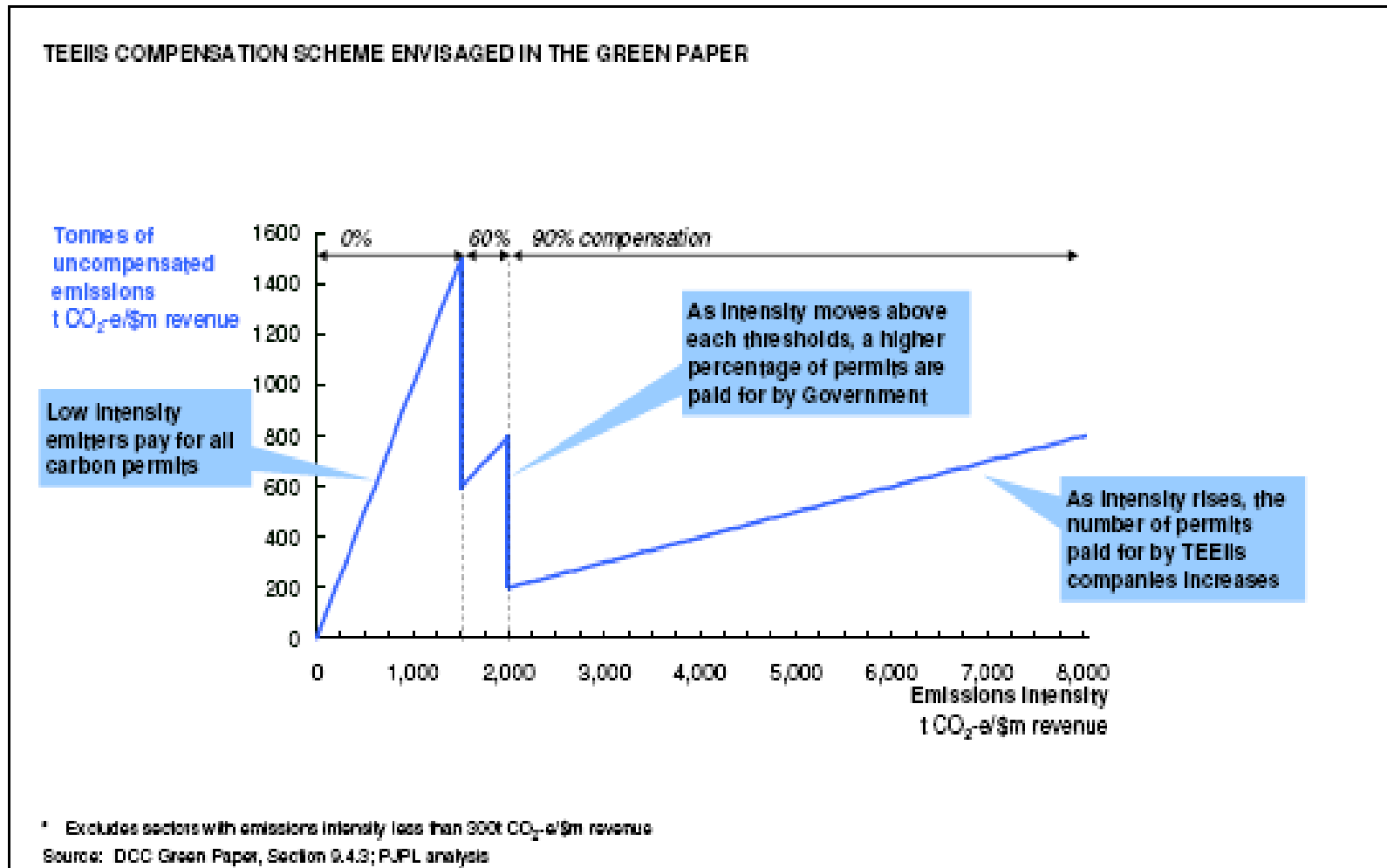
## 義務移転番号(OTN)

- 「適格な上流燃料」の供給者は、その燃料の下流における排出に責任あり
- 顧客(燃料購入者)がOTNを知らせた場合には上流燃料の義務をその顧客に移転可能
- 暫定排出量は、その燃料が具現化した温暖化ガスに基づいて計算される
- もしOTNが知らされなかった場合、供給者は、暫定排出量に基づく排出枠の取得が必要

# 高排出量で貿易依存度が高い産業

- EITE産業 (Emissions Intensive Trade Exposed Industries) - 炭素「漏洩」の恐れ
- 大規模な貿易依存度の高い企業への支援と他の社会的利益のバランスを図る
- 業界平均の排出集約度に基づき算出し、無償許可証を発行することにより助成する
  - ・ 生産が条件

# EITE産業に対する助成案





## EITE助成

- 集約度が売上げ100万豪ドル当たり2000トンを超える場合は90%の助成
- 集約度が売上げ100万豪ドル当たり1000トンと2000トンの間の場合には60%の助成
- 「世界不況緩和措置」により制度開始5年間の5%と10%の追加（94.5%、66%）
- 石炭産業をEITE助成から除外

# EITE助成

- 助成は施設ではなく活動に基づいて計算される。1施設に多数の活動はありうる。
- 助成は業界平均に基づく
  - 効率の良い生産者は相対的により手厚い助成を受ける
  - 効率の悪い生産者は改善するインセンティブがより強く働く

# アルミ精錬業者に対する助成の計算

- EITE助成の割当の公式

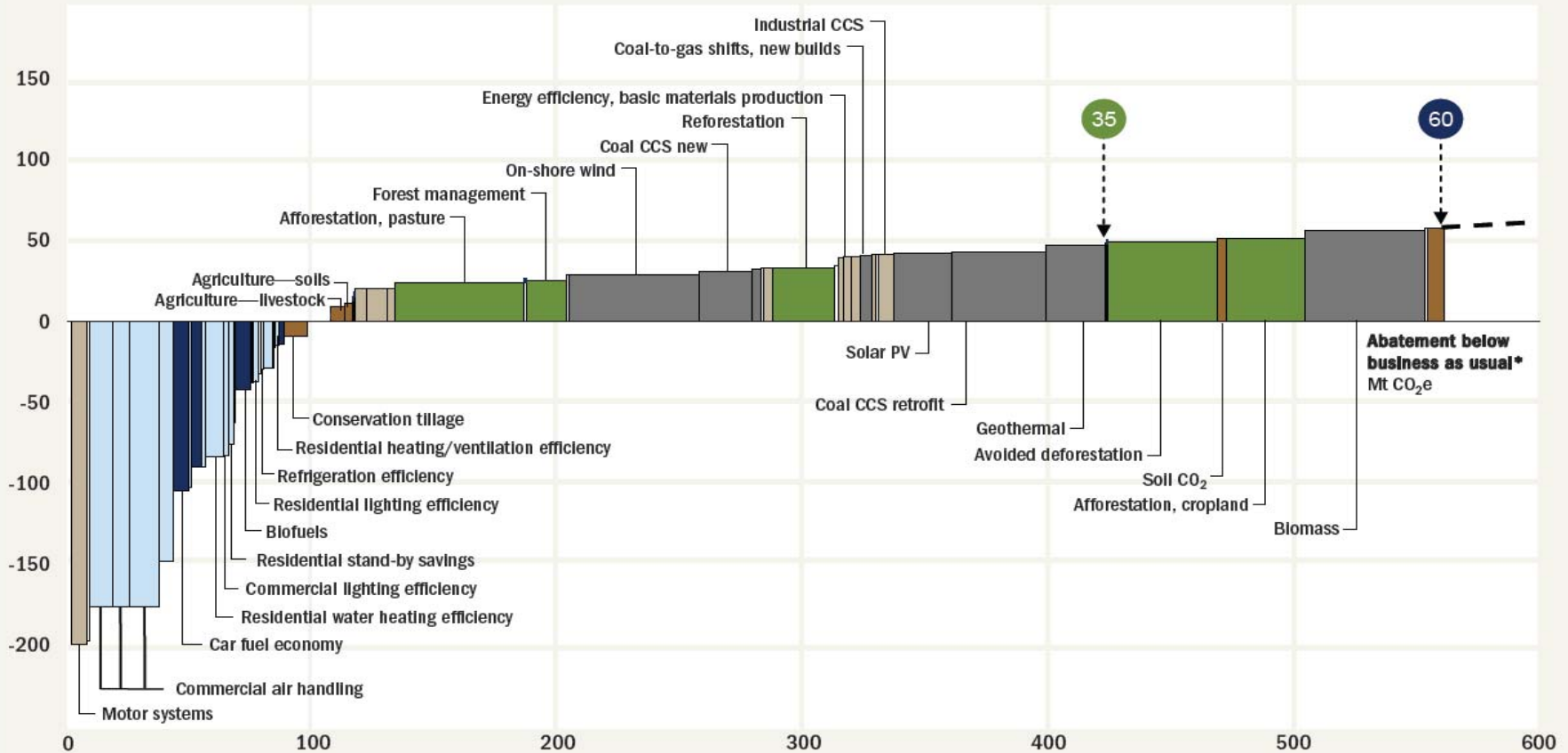
- 助成の割合  $\times$  (直接排出集約度  $\times$  調整された削減量) + (電力使用ベースライン  $\times$  電力割当要素  $\times$  調整された発電量)
- $94.5\% \times (2 \times 1,960,000) + (14,854 \times 1 \times 1,960,000) = 31,200,000$  排出枠の助成(無償供与)
  - 豪州の精錬業者の平均排出量に基づく
  - 2007年6月3日以前に電力契約をしていない限り、電力割当要素は「1」
  - 各精錬業者は平均よりも高い効率で操業すればより高い割合の許可証を取得

# 豪州の二酸化炭素削減の限界費用

## Australian 2030 carbon abatement cost curve

Cost of abatement  
A\$/t CO<sub>2</sub>e

- ⓧ Reduction below 1990 levels, percent
- Break-even point
- Industry
- Buildings
- Forestry
- Power
- Transport
- Agriculture



Note: Abatement opportunities are not additive to those of previous years

Source: McKinsey Australia Climate Change Initiative

# 石炭火力発電に対する助成

- 無償の排出枠(許可証)を一定の石炭火力発電業者に発行
- 突然の資本引揚げや電力供給の不安定さを回避する趣旨
- 事業継続が条件 (power system reliability test)
- 棚ぼた利益を上げていないことが条件 (windfall gain test)
- 5年間で約35億豪ドル

# 石炭産業調整基金

- 炭鉱移行支援基金
  - ・ 排出量削減計画のため、「ガス」鉱山に対して5年間で5億豪ドル
- 炭鉱削減基金
  - ・ 5年間で2億5,000万豪ドル
  - ・ 優位性に基づいて与えられ、受け取った業者は1ドル単位まで説明することが求められる
- 石炭業界は現在増額に向けてロビー活動中

# コスト転嫁

- 政策: 合理的な炭素コストを転嫁する障害があつてはならない
  - 価格上昇が消費者に及び、これが炭素価格による効果的な警告に - さもなければ豪州の目標達成は困難
  - 特定の事業や産業に対する制度の影響を増す
- しかし、現在は価格転嫁に関する法案なし

## コスト転嫁(続き)

- 契約によるコスト転嫁の禁止
  - ・ 長期のエネルギー供給計画
- 規制によるコスト転嫁の禁止
  - ・ 電気・ガスの消費者価格に上限



# 本日の講演の概要

1. 温室効果ガス排出に関する豪州の国際的義務
2. 温室効果ガス排出に関する豪州の現在の規制の枠組み(MRET制度とNGER法)
3. 排出権取引制度(炭素汚染削減制度、CPRS)法案の内容及びその現在・将来のプロジェクトへの影響
4. **野党が提示したCPRS修正法案の内容**
5. CPRSが各種プロジェクトの投資家にもたらすビジネス・チャンス
6. 質疑応答

# 野党(保守連合)が提案した修正法案

- EITE助成
  - ・ 2015年まで94.5%、その後は90%という一律の助成
  - ・ 100万豪ドルの売上げ当たり850トンというより低い水準の排出に対しても助成
  - ・ 事業者の国際的競争者の80%が炭素削減制度を実施するまで90%の助成
  - ・ 助成を決定するに際し、一連の連続的な生産過程を含む産業を単一の活動として評価させることを認める

# 野党(保守連合)が提案した修正法案

- 炭鉱排出

- 大気中に放出されるメタンガス排出を制度から除外
- 2025年までに30%の削減を達成するため、大臣に対して大気中に放出される排出を規制する権限を付与

- 発電業者

- 電力業界に対して集約度をベースとしたキャップアンドトレード方式を採用
- 15年間で100億豪ドルまでに助成を強化

# 本日の講演の概要

1. 温室効果ガス排出に関する豪州の国際的義務
2. 温室効果ガス排出に関する豪州の現在の規制の枠組み(MRET制度とNGER法)
3. 排出権取引制度(炭素汚染削減制度、CPRS)法案の内容及びその現在・将来のプロジェクトへの影響
4. 野党が提示したCPRS修正法案の内容
5. CPRSが各種プロジェクトの投資家にもたらすビジネス・チャンス
6. 質疑応答

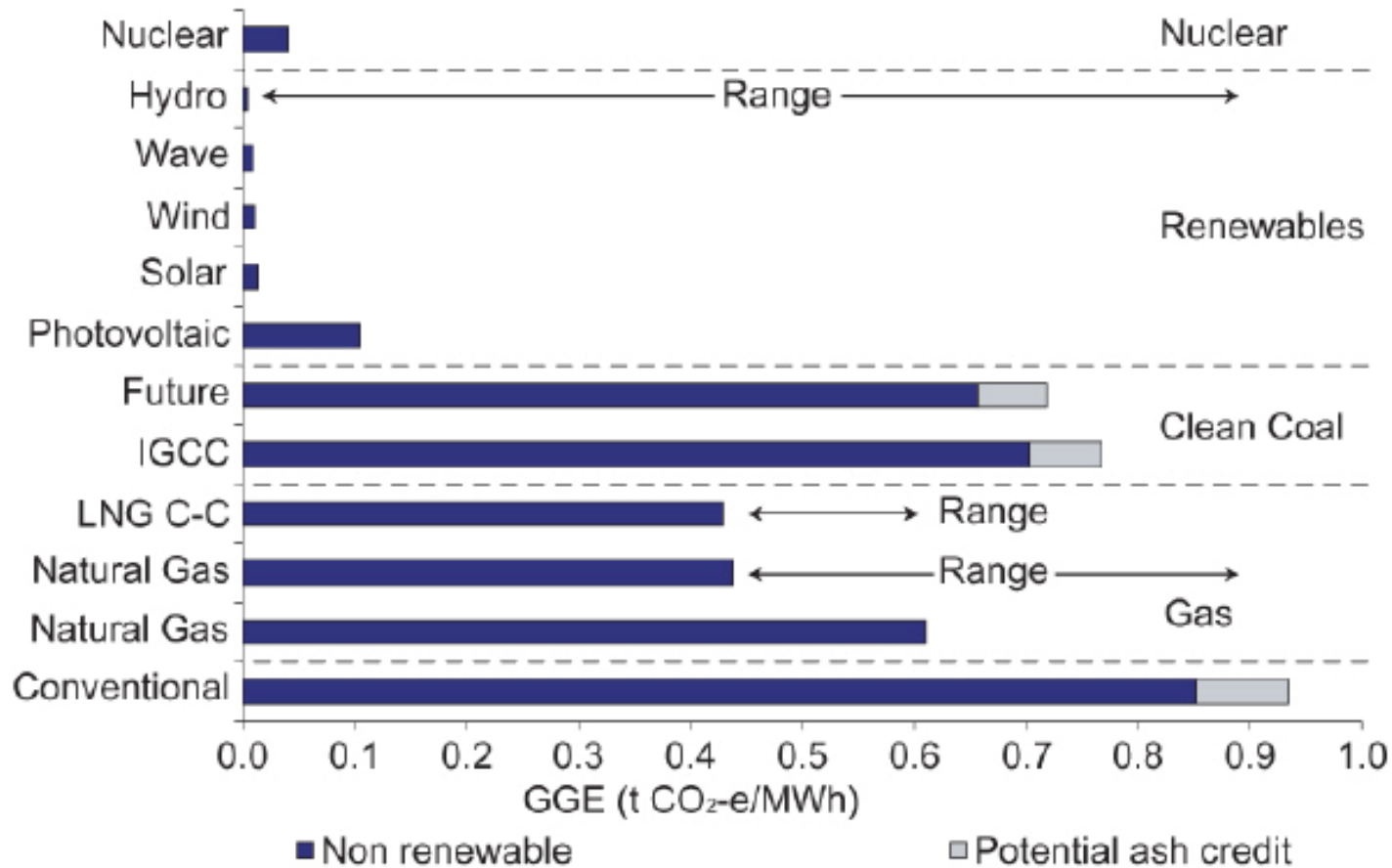
# ビジネスチャンス

- 風力、太陽光及びガス火力
- 炭素捕捉・貯蔵法、精炭
- 林業

# 林業

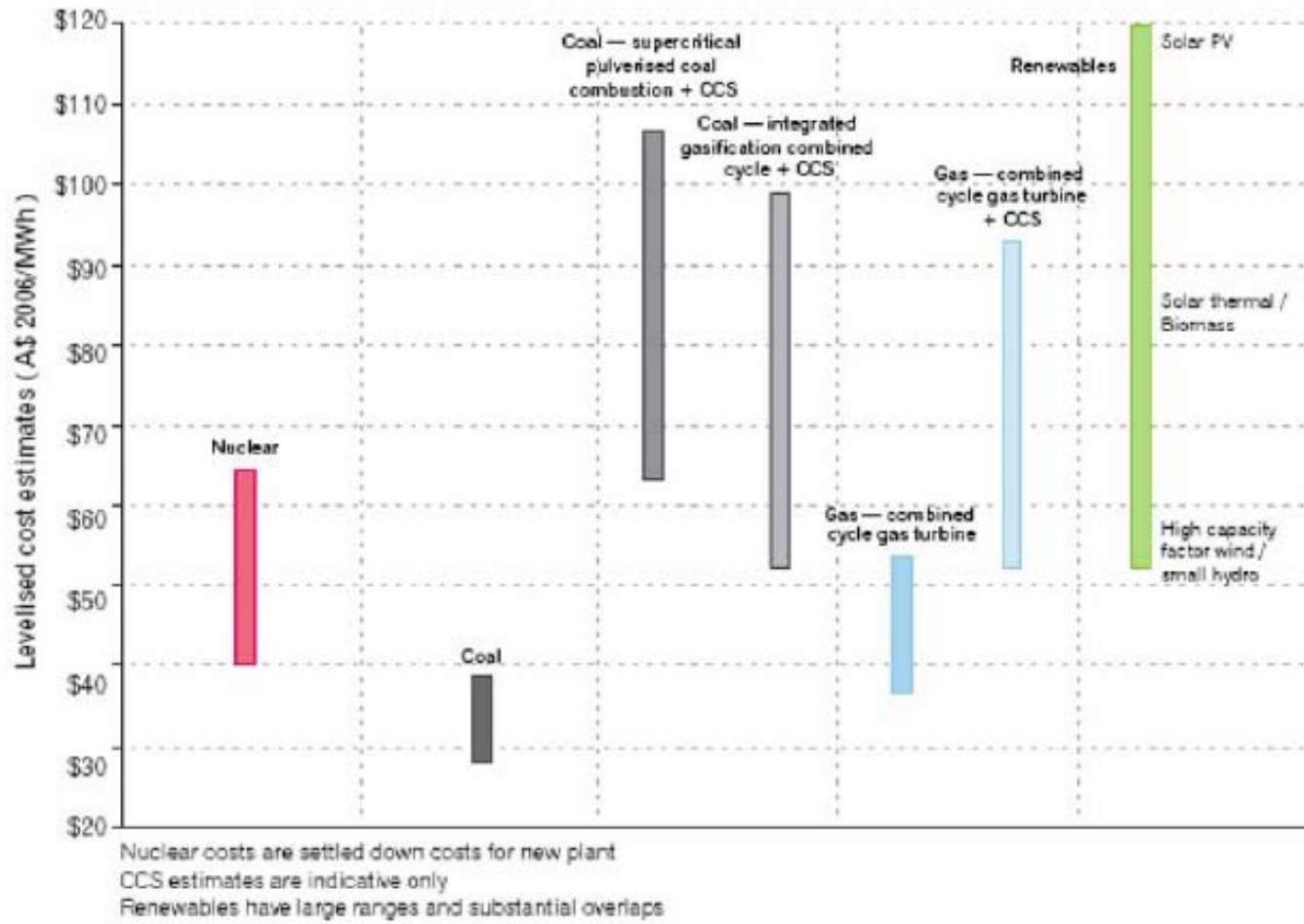
- ABATE報告書：炭素汚染削減制度(CPRS)下における林業のビジネスチャンス
  - 以下のURLにて取得可  
[http://www.abareconomics.com/publications\\_html/ins/insights\\_09/a1.pdf](http://www.abareconomics.com/publications_html/ins/insights_09/a1.pdf)
- 報告書は以下を示唆：
  - カーボンプライス豪州に著しい緑化(植林、林野化)をもたらす
  - カーボンプライスのレベルにより予測に大きな幅が
  - したがって、豪州における削減目標などカーボンプリスを決める要素が実際の緑化の程度を決めるのに重要

# 発電による二酸化炭素排出



Parliament House research paper - 'The potential for renewable energy to provide baseload power in Australia', Stewart Needham

# 発電コスト



Parliament House research paper - 'The potential for renewable energy to provide baseload power in Australia', Stewart Needham



# Economics of New Technologies

現実には、非経済的な技術において法的問題はほとんどないであろう

長期的な視点に立てば経済的な理由が適切な技術を決める

ETS(排出権取引制度)やMRET(再生可能エネルギー強制目標制度)などの政府の規制が代替エネルギーを促進

Table 35 Cost of emissions saved by substitution, Victoria, NSW and Queensland in 2010 (\$2008)

|                               | LRMC \$/MWh | Emissions tonnes CO <sub>2</sub> -e /MWh | Cost of emissions saved (\$/tonne CO <sub>2</sub> -e) |
|-------------------------------|-------------|--|---|
| <b>Victoria</b>               |             |  |   |
| Coal fired plant (brown coal) | 46          | 1.2                                      |   |
| Gas fired CCGT                | 54          | 0.4                                      | 10  |
| Wind turbine                  | 100         | 0  | 45  |
| Solar thermal                 | 200         | 0  | 128   |
| Solar PV                      | 240         | 0  | 162   |
| <b>NSW and Queensland</b>     |             |  |   |
| Coal fired plant (black coal) | 44          | 0.75                                     |   |
| Gas fired CCGT                | 60          | 0.40                                     | 46  |
| Wind turbine                  | 100         | 0  | 75  |
| Solar thermal                 | 200         | 0  | 208   |
| Solar PV                      | 240         | 0  | 261   |

Data source: ACIL Tasman modelling

Note: Victorian CCGT has lower LRMC due to lower gas price.

The LRMCs in Table 35 are estimates of these costs in 2010. It is very likely that the costs of renewables will fall over the coming decade and solar thermal and solar PV generation reach between \$100 and \$150/MWh. In this case the cost of emissions saved would be \$66 to \$133/tonne CO<sub>2</sub>-e.

# 本日の講演の概要

1. 温室効果ガス排出に関する豪州の国際的義務
2. 温室効果ガス排出に関する豪州の現在の規制の枠組み(MRET制度とNGER法)
3. 排出権取引制度(炭素汚染削減制度、CPRS)法案の内容及びその現在・将来のプロジェクトへの影響
4. 野党が提示したCPRS修正法案の内容
5. CPRSが各種プロジェクトの投資家にもたらすビジネス・チャンス
6. 質疑応答

# Q & A

CLAYTON UTZ